

ITER (国際熱核融合実験炉) 計画

平成19年度予算額:54億円
(平成18年度予算額:14億円)

人類究極のエネルギーである核融合エネルギーの実現を目指して、ITER計画と核融合の将来への幅広いアプローチを戦略重点科学技術として推進

ITER計画 : 核融合実験炉の建設・運転
核融合の将来への幅広いアプローチ : ITERと並行して補完的に取り組む先進的核融合研究開発
イーター国際核融合エネルギー機構設立協定(イーター協定)について、本年5月29日に我が国の受諾所をIAEAに寄託
日・欧州原子力共同体核融合エネルギー協定(核融合の将来への幅広いアプローチ協定)は、本年6月1日に発効

ITER計画

参加極: 日、欧、米、露、中、韓、印

建設地: フランス・カダラッシュ

核融合熱出力: 50万KW(発電実証はしない)

ITER機構長予定者: 池田要氏(前駐クアアチア大使)

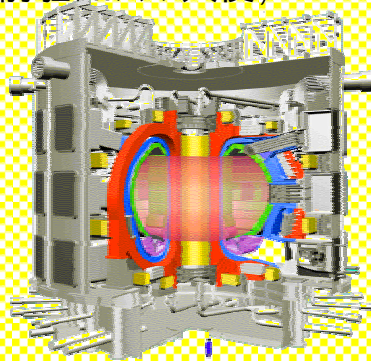
日本の分担割合:

建設期: 9.1%

運転期: 13%

計画(予定):

建設(10年間)、 運転(20年間)



核融合の将来への幅広いアプローチ

実施極: 日、欧

実施地: 青森県六ヶ所村、茨城県那珂市

総経費: 920億円を日・欧で半分ずつ負担

計画: 10年間

実施プロジェクト

国際核融合エネルギー研究センター

・原型炉設計・研究開発調整センター

・ITER遠隔実験研究センター

・核融合計算センター

国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動

サテライト・トカマク(予備実験等の実施によるITER支援)